一ハ句ハ。是をそこなひ
あやまるといふ。誘誤とハ。ふ
をたらすまをといふ。三乃
句ハ。恥をかくしてう
ちうをいふ。三乃句は。
弟子おさるまをうち
ひいるまといふ。四の
句は。恥をおさるかな
をこゝろなり

巻之上終

新二十四孝諺註下

忠出孝門

申明

むゝ楚乃慧王ハ姫ふ。伯公といふものあり。乱
ををこして。楚国をうばんまをとんとり。
惠王ハ伯公を使こまをふ。たゞやすく成こ。惠
王ハのこまをく。朕ハ聞ふ。忠臣ハ孝子ハ
いとりあることいふ。ハ世間ふ孝子ハ
ゆく。大将軍ハ。伯公を使ハ場まをこんゝ
ちふ。孝子あんとあり。こゝふ。大ハ臣奏していた
く。注ハ申ぬといふあり。さてあて孝をまくをふ
をものすりといふ。楚王大ふよろこんて。申ぬ浮ア。
敕使をたてく。呼ハ申ぬいとく。あ

孝子も。君臣のたゆふあり。されば今あるかわりに。父
ふつふまつる豈さらふ父をもて。君ふつふまつ
やとしるべく。教命ふ君ふ王命ふ君ふ王又君ふ君ふ
ふ君ふ臣ふ。ことごとくふ辞して行まじ。父をもて
申ふいはく。汝何ぞ王命ふ君ふ王ふ。国をや
をんん。名を後代ふ残さるべや。是又孝子
ふ君ふ王ふ。されば君ふ王ふ。死するまで
わづらはしを。孝をつめていひ。申ふ言ふ父を辞
して。楚王ふ汝ふ。楚王申ふ言ふ。大
ふ。ふ。孫孫将軍とす。元兵とおそれ。伯ふ
うこしふ。伯ふ。伯ふ。ふをぎたうといふこと。
伯ふ。右ふ。ふ。申ふ。ふ。孝ふ

ふ。今申ふ父を召ぐりれ。軍中ふをき。
さて申ふ軍兵を引つれ。をん来ん時。申ふ
かりうくん。汝ふ父今をくふ。ふをうくこれ
ふ軍中ふをきふ。汝ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。汝ふ父を国前ふ。教をしてこいふ。申ふ孝
子なるまく。和諍をんとこふふり。ふくをいふ
らること。ふ。ふ。ふ。元兵ふ。
ふ。ふく申明攻ふ。ふ。ふ。右ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。軍中ふ。ふ。申ふ。ふ。ふ。
ふ。申ふ。ふ。ふ。ふ。孝ふ。ふ。ふ。
をこなふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
む。ふ。ふ。豈ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

といふて軍をとゝのへて伯公を屬楚王ふ。たゝかはんとす。王ゆるしたまふ。時ふ申的こゝろざしをもつて。楚王ふまゐらしていはく。我父ゆるしたまふ。伯公はたゞふこゝろざしをもつて。楚王をもつて。伯公を勢し。申的父をとゝのへんとす。ゆゑにふたりこゝふをいて申的天ふあとのひく。數ていはく。我國をたすけ功ありといへども。父を勢ひの恥ありといふ。こゝろうらの劍をもつて死をりとゆんいへり。千字文の註ていはく

○詩曰　楚王讀時的　互彼白公軍
　　閔父曰推殺　輕身不銜恩

一二の白ハ楚王の中的と教伯公の軍と彼まをといふ。的ニハ

うまのとうまのうと。三四の白ハ申的伯公とかりつかり。功勲ふよりて。富貴ふ身ふ。ひとりはけきこと。父伯公ハ勢さまし。ふ。歌をそなへ引ぬうまをとつかり銜こゝろをもつて。今申的。功勲をうゝさはまをとつかり

血飛て上幡

東海孝婦

東海の小孝婦あり。姑小はうへくそなりて孝なり。既に
夫に離てより。常に年を弱くして夫死せり。姑
ひとり他人の嫁をもらまをなく。幼少姑小ちう
ひはうへり。姑れいくに。男子も年八ヨリ。郡の兵
を郡をもらんのあいてこいろふを嫁しのへこと。
孝婦ういくく。れ男をもてくさうを嫁をもらま
ほうんやとこいふくいよく合ーろふつてり。姑細く
うりなべことを。ふくしひ嫁をもられ。姑をもへ
らく。郡九十小わまりくをうき婦をもらしむ
ほまを。あくとこいふくこうう頸をもくくを死を
ヒ。時小姑れ女。それ時れ夫守ふうへていくく。

系小嫁ゆる。郡婦と毒薬をもんこうをりこと。官人を
をまてくくめうんり。をくこうこうろうんこと。その時
獄官小于宮四こいふをれわると。婦ういくくこれ婦
も孝小小て。姑小つへ振ふます。十餘年ヨリ。
その孝世名小ゆくて。かうまを色。何ぞ報ます何
らんやと。達てあくへとを。夫守をれんをれ。
郡より刑罰小をこをひ婦をもの小いろもて孝
婦ういを色ねくくわ年をもて。をの上小ゆ人
れ懷をうけくたまをれ。郡をあくをくし。
郡頭をと小。姑を殺さ。血をもて地小へ入て。
ゆをこくをれ。血あがりて。懸の上小をうへし。
こいひをくり。刑罰小くりゆ。時小血青黄ヨリ

なるまで。懷の上おさうのぞり。皆人をとゆんで。
奇異れ。ちひとぞ。こたつ。まき。元ちう。東海三
年ち間。大ふ。畢ち。手。定國ち云。元ちぶれ。まゆは
あ。ふ。先の。大宇。柱て。孝婦と。教をるゐ。ちこ
ろなるを。ほれ。たを守。元を。ゆて。孝婦れ。墳のなか
いたりく。ゆ。たまへ。たを守れ。いまこうつ。なを
ゆ。ふ。ゆ。ゆ。ゆ

焦飯防安

漆器もの。黒漆塗人物いたりて巻りを作り。内に那吏那吏なりと。毎あるとつるふ。編てこれ焦飯と嘗これめるもの。ふりて。那吏ふて他処ふあるをいへとも。平生ふ鉢を勝ふつる食とのうたびとふ焦飯を鉢りへく。毎に洋ふとうりの。その飯ふ漆器といふもありて。乱とうとうして。流水はれ色塗もたやすく感じ。時ふ漆器ふ編焦飯と。鉢ふ。あつ。ん。たりといへ。毎にとふ。とう。飯をさたりの。よりて。自分ふ苦ふ。てそれ。こと。破きて。縊死する。とれ。毎。此ふ。海器ふ。焦飯と食て。縊死と。

陳遺

如うもてうり。元ふ。ふ。ふ。

これ白ハ深き紅色ふかのうて。毋れたゑんふ金箔仮とたくさんしまとふ。二の白ハ深黒ふ黒礼とのぐ。三れ白ハ。てんかとさゆうてるまりといふなり。四れ白ハ。黒ゆ。予る。つ一時。深き。黒ふ。かうり。毋ふ。あひ。毋れ目きいてるを耳きいてることをいやーゆ。あります。

祝三月社

伊勢神保

伊勢神保ハ連れ人うと。幼して父母ふ。孤ことり。て。二歳のまとふひ。ちの人と。親ぜんとちふ。二歳迄。ふつよ樹ちづるらんとするふ風山を。親と。祝ことも。祝ひていまさしを。ふようて。兎ふつ人。祝とするふ。ゆ。ちを。やそれまふ。二歳の像を。化て。常ふ。ふ。ちんと。夫婦たふ。いつちゆ。ふ。ちれ。祝ハ。ゆ。ふ。ちて。あまることなるふ。と。れて。二歳の像と。一木ふ。刻て。約。外ふつ人て。蛇の。意地て。二歳れ。忍。と。ゆ。ぜんと。ゆ。ふ。なるまふ。ふ。一祝。ふ。祝の。ふ。ちゆ。ふんこ。まふ。石屋山と。云。ふ。入く。ゆ。ふ。一祝。ふ。祝の。樹と。ゆ。たる。と。神保。ふ。怪。山ふ。を。礼。ふ。て。ちゆ。ふ。これ。ふ。父母の。怪。と。別。ぐく。背。ゆ。た。

まくと。三度れいをぬきぶつ糸三度踏歌をうつ。
神保山木を切りうつり。珍御と造て。二歌の像を彫。色
あふあ置し。常ふ毎日ふ水像ふ向ひつつふる事。
夕時のてうしゃ。ふ形とんその席と泥とう被とつく
たむ。鶴の嘴とん。床枕とあとく。ふ行する時え。
それ形ところ為と為つる時ふ木像ふ唯今泥とぬる
ことゆりう。豆そし木像ふつる事。三十年ハ同一色か
ちる事色。ふて置人それ参りなる事と。ゆ同ふ
中又人ふ参うるし。ふ参徳て下ふ有ハ
ごとう。孝威。角ふ入くうり

○詩曰　狐堂不親在　保山木保
命上工刻忌歌　日拝動飛歌

一ハ句ハ歌のいはさ無の
まといふ二ハ句ハ深山
みく。一ハ句ハ枝とはそ
ふ為事といふ三ハ句
ハ二歌ハ像と。たユふ化
ちしかといふ。余ハ事
為とうるうと。忌歌ハ
二歌のうちといふ。四
乃句ハ木像ふ毎日向て。
むうはうさ為事
といふ。歌ハるけさる
くと。渡するうと

竹筒二魚

杜孝は家貧なれども親に孝あり

杜孝

とはくらせるなり。さて夕べ食つるに魚ふ
くらく又ふとられぬ。母とこれを問ふに
家貧なれども買ふて蜀成都にあるとて
なるべき。元ふとりて魚ごとりぬ。さて
母つるに魚とこれをくらへ問ふ杜孝を
くらく。今他郷にありて母生魚を食
たまふるあり。元ふ母をとふ生魚を
とくんとくんとこれをたりたり。杜孝生
魚をおぼしけさと。二つ竹筒大なる竹を
きりて筒とりて生魚二ッを入く筒をば作

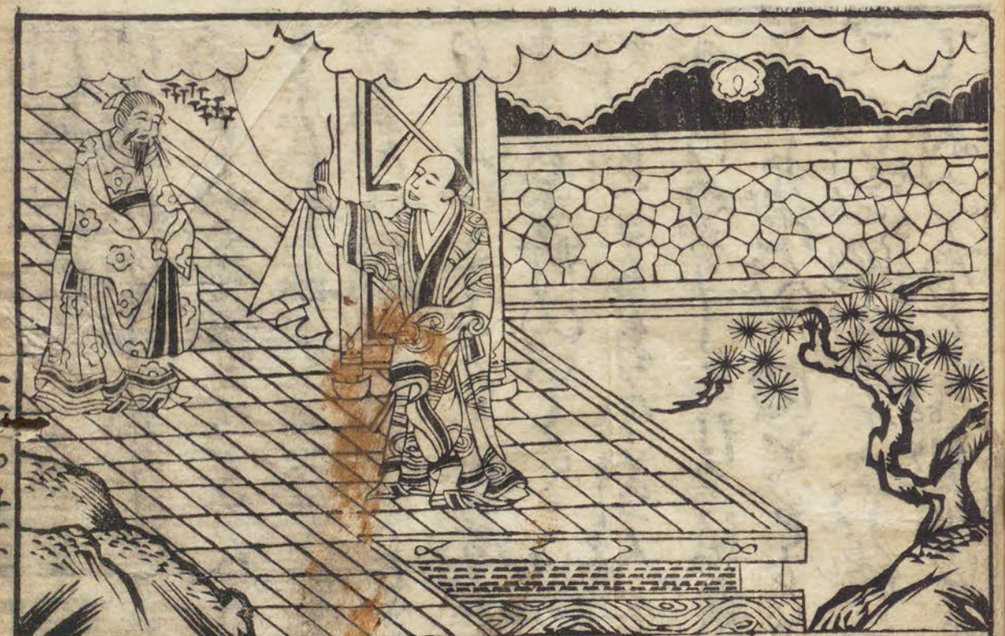
杜孝とんふ貧。貧にして母を養ふ。
なりとそん。通めぐる。海ふとりて
杜孝とたて海ふ投入く。ふ海ふ。
日杜孝ら書。海西ふ
つ。ふ。
そ。ま杜孝は母ふ
らんといそ。
ま他人は
なんと。
思ふ。
孫。
杜孝ふ
杜孝は母を

○詩曰
為官身在蜀
投水害生魚
急急如門隔
宮孔雀紋弦
詩曰こゝ為官身在蜀投水害生魚急急如門隔宮孔雀紋弦

孝子伝

後周孔僧元尚第六人なり。こゝろ孝行を
つとめ。ちゝ親のために。孝子ことゝなる。
年十六歳なる時。父母服めしいたる。僧元常に
こゝろをひそめ。むまやこゝろ色をかへ。
とまねきて。僧元ゆくゝ〳〵ごとを父母に色
あるとき。時業師僧元とゝ。ん海に。漁者得視さいわい父母あ
つまりつくゝ僧元とよむ。ものさらに父七人
僧元とこゝろけて。燒ごとゝ。七日七夜おのゝ。業師
僧元を清。もゝ。ものゝ村に。ものゝ。孫をかりて。不
孝なる者は。孔父の用めしいて。海中色。今僧元を
僧元孔父。流生おりとこゝに。此徳ありて。孔父

僧元



はれを明めてゆくるまをとなたなりて親孝行の者
て前月の者ごろんこいの者ゆまり七日七夜あるとそのの
酒じめ酒飯ふいろく義ごらく一人は老義十郎
て金九郎とん藤治郎法元ふいろて云孝行
は五郎三百をこさるげ為ふ藤てあきろうあるん
うあるんうあるんむまあるもこと法元をとゆて大
ふ悦めとゆ覚えてゆ夢さんとうもあるさて山ゆ年
は子孫と繁昌の者ごとうあること者たる
ふ三百すぐさめ酒ふ恩ふ祖父の為月をしけて
あるうるうるうるとこ元月史うんるうる

○詩曰　嘗法祖父　孫爾為孫　寧教孝子　後法羅法　寧教孝子

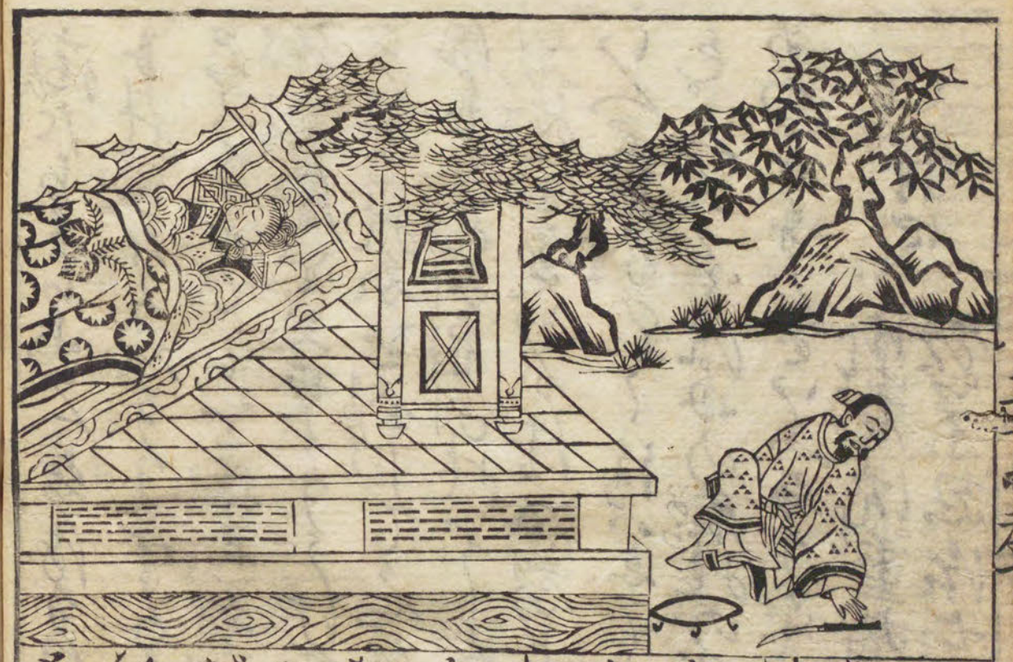
一二は旬ふ法元とあく
父母ふんうあるて孫父
うるもとゆふ孫爾
ふびんづくとよあるそい
こけあるとゆふ三四は旬
ゆ。祖父は月ふるる
とうあるして。孫師
孫をとゆこ。又元孫とた
のくて。はりしとゆふ。
こは孝心ふとりて。孫父
は為親ゆくさたふ
とゆふると

割股和歌

張春

張春は海内なたらぬ。もと大納言なれ共。
西とみ家位たうさんなりといへ共。
くらしてゆ毎ふつゝて孝りをり。母ゆやん
つも。それ病潮くふとゝもまりぬ。医師と曲
わきそ。さまくゝ薬どもをごと。ゆふそれ共
ゆ。医師のいはくゝこれ病いゐ治とい〳〵とも薬
相れ見ざるあり。第人なれ肉をかゆ。
用ハいゐ治ゝ。
たゆ。花人乃肉と。ゝとしなさ煩ゆゝといふ
て。結紀と際戒して。て花おいのゆて。已ゝ股を割
て。薬かゆ入。祭じて。母ゆきゝめ治ひふ。その

病たちまちふゝ。花刈母とゝゆむ
ゆれ。母なる所ゝ。ゝ治ゝ。孝子傳ゝ
ゝゝゝ。ゝと強長ゝ。評論して。ゝゝ強ゝ新
新髪層と。父母ゝゝゝけて。あゝてそこゆひゆゝ
ゝ。ゝこれ新を全してゝ。孝れゝ。先ゝ
孔子賢ゝれゝゝたゝ。花ゝそゝむゝて
新新を屈ゝ。孝ゝゝゝゝゝゝ。花と
いゝゝ。ゝ孝ゝ忘ゝゝ。已ゝ新の新ゝと
ゝ。ゝゝゝ。母の新れのゝゆゝとねゝ。孝者
ゝゝゝゝゝゝ



詩のこゝろをもつらんやすし。一ハ句ハ母の病をとゝさといふ。二の句ハ紙衾との寒を股をさすて。菜の羹ハ母へまゐらせといふ。三ハ句ハ母の寒を病ハ。いへしまをといふ。四ハ句ハ。病人ぬるまこハ。母ハ。もんとをだやうみて。ゐへのみらもひろきまをといふ。

王祥

王祥字子征琅琊人也。父母早亡。祥性至孝。母朱氏。祥事之如母。朱氏嘗病。祥晝夜不解帶。朱氏思生魚。祥解衣將入冰。冰自解。有二鯉出焉。朱氏食之。後母朱氏又亡。祥哀毀骨立。後官至三公。

王祥字子征琅琊人也。父母早亡。祥性至孝。母朱氏。祥事之如母。朱氏嘗病。祥晝夜不解帶。朱氏思生魚。祥解衣將入冰。冰自解。有二鯉出焉。朱氏食之。後母朱氏又亡。祥哀毀骨立。後官至三公。

石奢

石奢者。楚昭王時人也。為司馬。昭王時。有人殺人。王使奢追之。奢知殺人者父也。縱而不追。王怒。奢曰。法者。王之所置也。殺人者。臣之父也。奢聞之。曰。子以孝聞。而不法。臣不忠。不忠不孝。何以為人。遂自殺。

を昭王に密奏せんとす。昭王に帳あるうり。昭王石奢をめして。のゝ海
へく。父ハ海ハ父人ところをいふ。何ぞ汝父ハ
かうへく。海数罪人をなるやとおうしぶ。石奢
いはく。父をん。罪をたゝそれ罪をあるとさば。不
孝ハ逆罪なり。ゆゑに王法ハ制禁をそむきて。
父の罪をかくしゆるさは。又ハ不孝ハ法ハ
ハ不孝といへ。いかんとも人ハ法なし。唯己ハ自身を
捨て。父ハ罪ハ免ハ。たゞちにつゝぶつゝ刀をとり頸
を刎て死ハ。あるさいハ。説苑ハ見へたり。

○詩曰　守官為郡吏　遇父殺人逃
別死全忠孝　世間奈之何

一此句ハ石奢ハ孝ありとなり。と云。敬ハこゝろを更ハ
さもなくと訓を敬ハ。ゆゑに敬ハ
奢の父人を殺をとさしかるに。二此句ハ
故節を無きんで。能死とたゝかをといふ。三此句ハ父ハ逃を死して。
ハ為ハ不孝なるをもそれ又ときて。奢ハ
孝なりといふなり。新郊祀志ハ。蚩尤を祠ぬるハ。
一鳥破獍を勇なるハとり。爾雅云。鳥ハ母を食破
獍ハ父を食。不孝ハ人ハ鳥ハ母ハ
夏至ハ来るとぬきぬ。ハ鳥ハ来ハ月ハ
ハ鳥を殺して。母を殺して食をうる。ハ夏至
ハ鳥ハ来ハ。石奢ハ殺して食をしめ。
もしも不孝なる種と殺ぐこと。
へて獍ハ。法人ハ法をしるるなり。獍の敵ハ

れ上ふとくとん。鳥どもふ家をは。つくるすり。ぬよ神人を。獄いつふくるふ。島の字と書すり。れふ掛れ字。獄れ字ゑんとを。ちらゆるまあるも。こゑあやゆるまるも。筋ふ不。鳥二虜。北遺感。こりけ。ふと。鳥れ字とぐくるとよゆまるなると。こと。ゑ不孝れ罪をふくいまゆんゆふるも

諸盲招開

大内れ陳栄ゑ。遠州瓜寧の人すり。父母ふ孝行ゑつ。ゆして父ふとくゑ。母と芸ふ。それ貪たゑ。畑を耕す。ゑんごとゑて。ふ。ゆてらゑ。老母と。妻ふ。老母ふ問ゆいたゑ。陳栄。耕ふ。上ふは。結神ふ。祈ふ。ふ。ふ。

割愛こらく神人まうして。船をあ
流たるふ者を。ゆへしらさて。あわるると。あを
あがまふ海ふて。あらかふ。あを栄と一ぬふれる。川栄
たるひしとあ人をふ。なて。ゆるとあ。竜ふ孝のい
なるるまて。神を感するやとんいうり。又ある時
栄ふ清水より。夫ぬく栄ふ。ふつんさん。その時栄を
化ふ。あるとあひるうあ。あるとそ。けんとそんさ。ぬ
色。栄竜を。ぬて。竜ふ。人ふ。あふ風かるう
て。栄ふ。あ事。命をうきとるうと。栄を孝感れいるん
さしうるとう。賀。色。紙ふんうり

○詩曰　中庸ふ　宋庭二屋云燒
　　　　鬼神稜愛狭
　　　　孝感如此

一れ白ふ。ふ雉とのぶ色
といふ。二の白ふ。夫雉を
ま。ぬるとのぶ。三白れ
白は。ぬ夫れ雉と。ぬ
ぞさ。ぬるまふ。孝徳
れるるさしうなるまま
といふ。変妖さふ。夫れ
雉とれるとといふ。妖は
ひざうひのまるを。今
孝徳ありまてふ夫
れひざうひれ変ど。ぬ
海となる

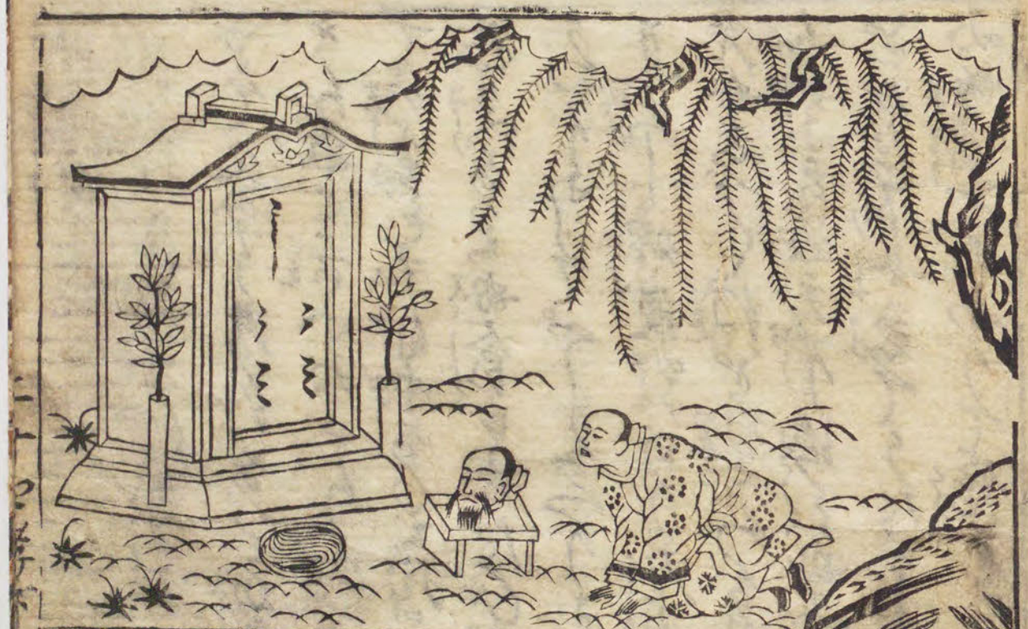
孝蓮

蓮八幡殿に仕へ人多くありしが、孝蓮とて、母と二人ばかりの侘住
みにつゝましく、母の肥満し給ひて、物をもとめて、孝蓮さらに
まうけ、母に奉る。母、孝蓮が孝行を感じ、肥満して、富貴の人
となる。孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。

孝蓮、母より、もの、ゆゑ、仮そめに、おこりを、
おこして、病おこれば、蓮、母に、孝行を、
尽す。孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。
孝蓮、母の為に、肥満して、富貴の人となる。

と打ぶるに。蘭花ようとうて死る。母親
ゆくるを。蘭さきをとつぶ。兄ハ病るぞやといふ。母
おもひ出て。下りゆくに。つる瓶ハ。藻井の絵人来りて。出て
ゆく。今命終り。ぬるといふと。魚たえ。蘭を見て
あくがれ母と。菊花をとりて。墓に手向ふ。あてごろの
服をとりて。さて藻井の絵人のところへ行。絵人と語て
母に墓に手向ふをといそぎ。墓と云うち。まよう。絵家
に行。藻井の絵人と。語いうをもつて。ぬへこいふ。絵
人兄と。浄瑠璃をしてぞハつる。飛神をハ。美なうと
てゆくを。ふ鳥ごゝ。孝徳院ふかへくる。

○詩曰　きのふ承新著　絵人徒安寂
　　て不報　不罪　知隈寡孤姫



一に旬ハ蘭つるふつゝ
といふ。新新類ハ。已にかか
やくをとゝ。ふりくゝ
てつくるといふ。二に旬
ハ。絵人母として。机を
ゝもふといふ。絵人をハ
絵人のまゝ。三に
旬ハ。蘭絵人をこと
ぬふといふ。不罪ハ。不
たゝり。大罪ハ。賢ハ
といふ。妖ハ神人のまゝ
を。藻井絵人とさし

蟹蛸自元合
異説孝子盛長

盛長

つゝそ父母より孝のあるを幼稚みして父のとくまゝ
らう母と云ふ〻〻〻〻時ふ母夜目めしいたり彼
て彼蛸を不自由なるを花ごとに盛長孝行
牡丹をあるを母食せんたびごとに盛長こゝろ嘗口
うつりて〻〻〻〻あり〻〻〻〻て母病みて〻〻〻〻
夜々〻〻〻〻婢使下女あり老母に戻てつゝ
老母ちゝばく〻〻と杖ちゝ〻〻〻〻盛長他れに行
下女ふ云ふ盛長主人絶〻〻〻〻母ふつゝ〻〻〻〻
を出ぬ下女ふ〻〻〻〻うたゝ〻〻〻〻と〻〻〻〻
ふ蟹蛸とあり〻〻〻〻

いふ〻〻〻〻とも〻〻〻〻れとい〻〻〻〻と〻〻〻〻盛長
ふ〻〻〻〻ること母かゝりて云ふ〻〻〻〻婢女〻〻〻〻ふ一杯とも
を〻〻〻〻つ〻〻〻〻花〻〻〻〻る〻〻〻〻ごと〻〻〻〻恩ふ〻〻〻〻す島ふ〻〻〻〻
ふと〻〻〻〻ふ〻〻〻〻と〻〻〻〻試ふ婢使ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻て〻〻〻〻
婢女ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻て〻〻〻〻
蟹蛸〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ蟹蛸ハ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻
ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻
と〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻ふ〻〻〻〻
ふ

一は句は。盧表母を驚かす。
嘶やしをいふ。二の句
は。下女意母は。蜻蛉貴を
ひろうをいふ。三は句は
盧表。他処より帰りて母
は。何をもとをうえしと。
をたんのまをといふ。はの句
は。下女表のまをて。盧表
をうへしをいとをのて。今
更ひろうをなさでと。
さけびなきをまを
いふなり

虎威孝道

太閤は鶴の羽の鷹を押の老夫あり。て性らして父
母より孝りなる。元ふりて世より孝老夫と。
あざなをいふなり。これ時節は建徳縣は押は。
虎威をして虎をもあり。里らくあり。元人をつ
ゝこらふなり。時老夫老母は たゝんは田野より
行て。米を頂てくらふ。猛虎うあひ出る。
是老夫をとらんとす。今をそは。虎は組は人
をのがれをいく。虎は。をいく。
あり。命のがれをいく。今世間孔僅して。人多く
飢死は。乏より老たる母あり。今穀米をとゝとめ
はく老母はあるこんとをふなり。時は同命を

○諸色

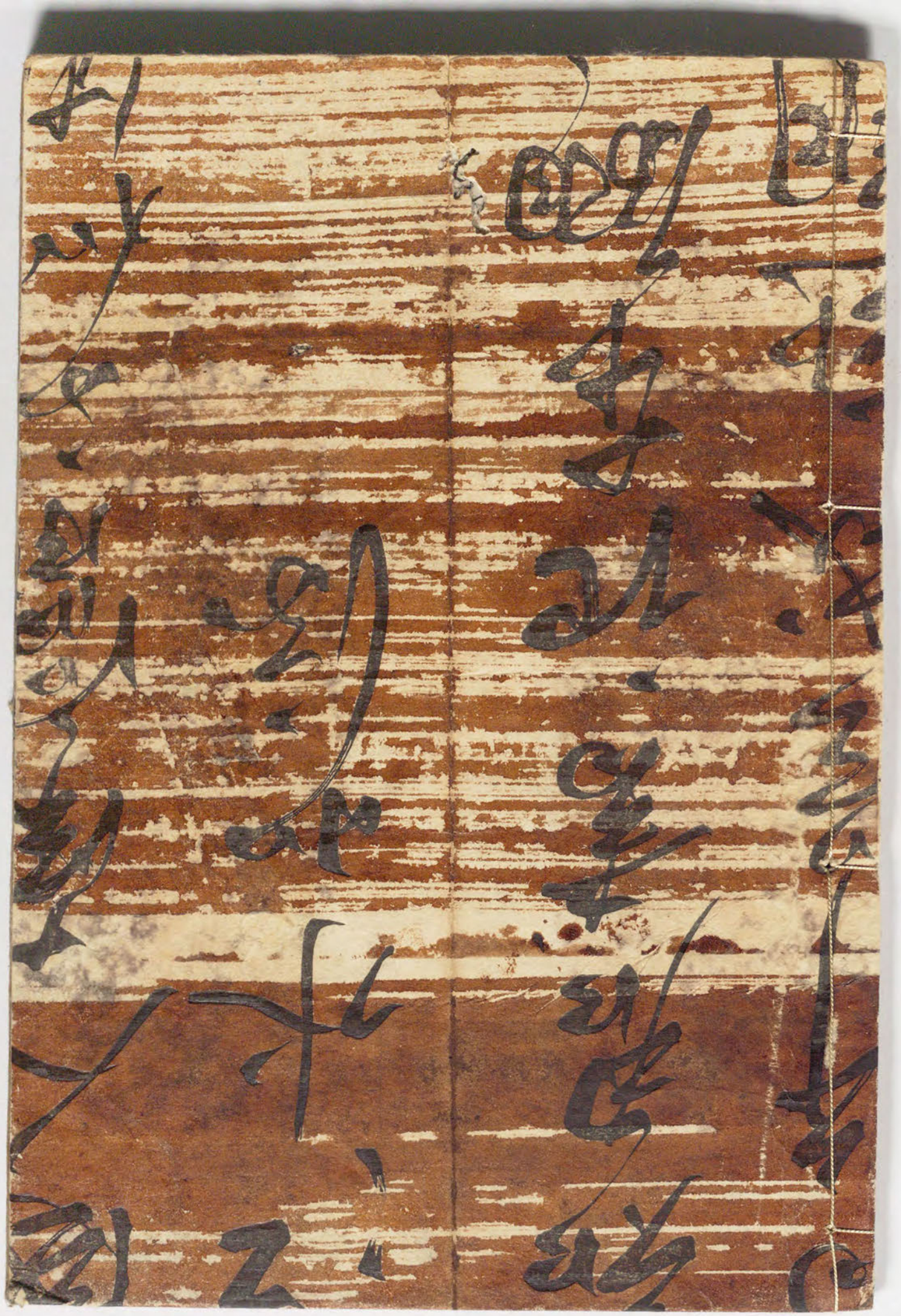
[illegible]

[illegible]

[illegible]

4000

話のこゝ[illegible]
ハぢらく虎ふ[illegible]
といふ。偽ハそ[illegible]
まをそ虎ろて金と
わこ人て巻[illegible]
ろーまをといふなり

巻之下終

德川藏書